

エー⑤ 平成 28 年度完了報告書

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	【上位目標】 ヌワコット郡、ラスワ郡において学校及び地域の防災能力が強化され、他地域にも普及していく。 【達成状況】 上位目標の発現見込みを把握するには時期尚早であるが、これまでのところ、本事業の成果の一つである防災紙芝居 2 タイトルが当会の対象校 12 校以外に、他郡の 80 のコミュニティ図書館やコミュニティセンターで活用されている。
(2) 事業内容	(ア) <u>教育省の耐震基準に準じた学校校舎の再建</u>： 教育行政機関からの要請とニーズ調査に基づいて選定した、ヌワコット郡の 3 校・13 教室（ラムチャンドラ中学校：6 教室 1 棟、サ・ダルム小学校：2 教室 1 棟、シャンティ・デビ小学校：3 教室 1 棟、2 教室 1 棟）の校舎建設が 2017 年 12 月に完了し、2018 年 2 月に耐震構造施設として復興庁の校舎建設の地方機関である Central Level Project Implementation Unit (CLPIU) に認定された。校舎建設完了後、水栓の設置、各教室に家具・備品の配布を行った。2017 年 12 月から 2018 年 1 月にかけて教員・学校運営委員会を対象に学校の維持管理についての研修を各学校において実施し、合計で教員 19 名、学校運営委員会メンバー 10 名が参加した。 (イ) <u>対象校の教員による図書館活動を通した子どもたちの心のケア、防災教育の実践</u>： ① 図書コーナーの設置 2017 年に学校建設を実施した学校（以下建設校）3 校とその周辺校（以下周辺校）8 校の幼児クラスから 5 年生までの各教室に図書コーナー（本棚と約 100 冊の図書）を設置した。図書コーナーに配架する絵本はカマンズの出版社、パール人絵本作家・図書館司書からのヒアリングを基に、児童の年齢にあった絵本を幅広い分野から選定した。 ② 防災紙芝居作成 防災紙芝居を 2 タイトル、各 150 部ずつ作成した。『地震はどうして起こるの?』では、地震発生のメカニズムを説明し、『学校で地震が起こったらどうする?』では、地震発生時の対処法と地震発生時/発生後の注意点を説明している。紙芝居作成時にはパールの防災専門家及び日本の紙芝居作家にコメントを頂き内容を改善した。作成した紙芝居は建設校 3 校、建設周辺校 9 校、2016 年度に当会が建設を支援した 2 校の計 14 校に配布した。またパールで図書館活動を行う NGO の要請に基づき、紙芝居活用法についての研修を実施したうえで公立・コミュニティ図書館に対して 70 館に配布した。本年度作成した紙芝居は 2018 年、2019 年の建設対象校（各年 3 校）、周辺校（各年 9 校）にも配布予定である。 ③ 図書活動研修 2017 年 11 月に教員を対象に 2 日間の図書活動研修を 2 回行い、上述の紙芝居配布対象 14 校から 56 名の教員が参加した。本研修では当会ミャンマー難民支援事業事務所の副所長および教材開発担当スタッフの 2 名をトレーナーとして招聘し、①防災についての基礎知識、②図書コーナーの活用および運営方法、③防災紙芝居の適切な演じ方等を教授した。研修に参加した教員からは「紙芝居はパールにはないので、児童は初めて紙芝居を見たのだが、大変集中して見ていて、おはなしの世界に入っているのを感じた。地震が起きた時、どうやって自分の身を守るべきなのか、よくわかったと思う」という声も聞かれ、紙芝居を用いた防災教育の方法は好評であった。

ようになる。

【指標①】

1 年目：対象校（3 校）の教員の 50%以上がおはなし、ゲーム、教材制作、場づくりを実施している

【達成度】

2018 年 4 月に実施した校長へのインタビュー調査結果は以下の通りで、紙芝居は実演されているが、絵本の読み聞かせは実践されておらず改善の余地がある。

	3 校の教員数計 22 名のうち	備考
防災紙芝居を 2 回以降演じた教員	68%にあたる 15 名	演じたことのない教員 7 名のうち 4 名は新しく赴任した教員、2 名は事務員。

【指標②】

1 年目：対象校（3 校）の子供の 50%以上が図書室もしくはコーナーを利用している

【達成度】

2018 年 4 月に実施した 3 校の校長へのインタビュー調査結果および 2018 年 5 月に実施した 5 年生 26 名への質問紙調査の結果は以下の通り。83%の児童が日常的に図書コーナーの本を読んでいる。また 5 年生の教室の図書コーナーに配架されている 126 冊のうち、新学期の 1 か月間で 30.5 冊、1 登校日あたり 1.2 冊の本を読んでいる。目標は達成された。

	図書コーナーを日常的に利用している児童の割合	2018 年 4 月中旬から 5 月中旬の 1 か月に読んだ本の冊数
Ramchandra 校	75%	31 冊
Sita Dharma 校	85%	40 冊
Shanti Devi 校	90%	15 冊
平均	83.3%	30.5 冊

【期待される成果】

3. 対象校にて防災計画が策定される。

【指標】

1 年目：対象校（3 校）の 50%以上が独自の学校防災計画を利用している。

【達成度】

3 校とも学校の敷地、校舎の階数、配置、運動場のスペースに応じた学校防災計画を策定し、教員室に掲示している。また避難訓練を実施した。目標は達成された。

【期待される成果】

4. 対象校の教員、学校運営委員会、地域住民、郡教育局の職員が防災に対する理解が向上する。

【指標①】

1 年目：対象校（3 校）の教員、学校運営委員会、地域住民、郡教育局の 50%以上が防災に関する必要な知識を有している。

【達成度】

対象 3 校の児童（5 年生 16 名）、教員 11 名、学校運営委員会および地域住民（保護者）6 名へのアンケート調査を防災活動前の 2017 年 10 月と 2018 年 5 月に同じ人物に対して行い、事業の効果を測定した。結果は以下の通りで目標値を達成している。郡教育局職員は、連邦制度の導入により 2017 年度で解体したためデータを収集できなかった。

	質問	対象	事業前	事業後
	地震発生の原因を知っている。	児童	0%	50%
		教員	45%	91%
		SMC, 保護者	0%	50%
	地震が起きた時どうすれば良いか知っている。	児童	50%	100%
		教員	100%	100%
		SMC, 保護者	83%	100%
	また教員へのアンケート調査結果は、教員が防災についての理解が高まっただけでなく、防災について児童に教える能力も高まったことを示している。			
	質問		事業前	事業後
	地震について児童に教えたことがある。		64%	100%
地震が起きた時どうすれば良いのか児童に教えることができる。		64%	100%	

【指標②】
1 年目:対象校(3 校)に通う子ども及び親の 50%以上が学校防災計画の存在を認知している。
【達成度】
2018 年 4 月に実施した 3 校の校長へのインタビュー調査結果は以下の通りで、児童については目標値を達成しているが、親については達成できていない。

	学校防災計画を理解している児童の割合	学校防災計画を理解している親の割合
Ramchandra 校	60%	30%
Sita Dharma 校	50%	35%
Shanti Devi 校	65%	50%
平均	58%	38%

(4) 持続発展性

成果 1 の校舎建設については、校舎建設後の 2017 年 12 月に校舎の維持管理研修を当会の技術アドバイザーが実施した。校舎は学校に譲渡され、学校および連邦制度の開始に伴い各自治体の教育部が維持管理の責任を負うこととされている。完成後 6 か月の瑕疵責任チェックを 2018 年 6 月に行い、必要な修繕を建設業者が行う。その後、修理が必要な場合、学校運営委員会および自治体教育部が予算措置を行い、修繕工事を行う。

成果 2 の図書活動については、各教室に供与した図書は有効に活用されていることがモニタリング調査によって確認されたが、図書は補充しなければならないので、学校の補助金を活用して、学校が独自に図書を購入する。またモニタリング調査によって、絵本の読み聞かせは実践されていないことが明らかになったため、2 年次以降、モニタリング時にブラッシュアップ研修を行うなどフォローアップを行う。

発行した防災紙芝居は、ホールで初めての取り組みであり、他の NGO や図書館から供与の要請があったため、80 部を供与した。次年度においても紙芝居の演じ方の研修を行い、供与先で有効に活用されることを確認したうえで、配布を行う。これにより、本事業の波及効果を高めることができる。

成果 3 の学校防災計画については、2 年次以降においても各学期(ホールは 3 学期制である)において 1 回、避難訓練を行い、防災活動の定着を図るとともに、必要な場合、防災計画の修正を行う。

成果 4 のコミュニティの啓発については、次年度において 1 年目の対象校に対してハザードマップの作成と発表会を住民を巻き込んで行う。また、避難訓練実施時に親への学校防災計画の説明を行う。